

入学予定者を対象とした SNS の構築について

佐久間拓也^{†1} 池辺正典^{†1} 石井信明^{†1}
川合康央^{†1} 釈氏孝浩^{†1} 宮川裕之^{†2}

以前に行われていた入学前課題では出題や提出が難しく、また入学前に入学予定者との交流は皆無であった。今回入学予定者を対象に SNS を構築して、入学前課題の出題や提出および入学前での教員・入学予定者・在学生間の交流を行った。本稿はこの報告である。

Making an SNS to Communicate with Future Students

TAKUYA SAKUMA, MASANORI IKEBE, NOBUAKI ISHII,
YASUO KAWAI, TAKAHIRO SHAKUSHI
and HIROYUKI MIYAGAWA

It has been difficult for schools to give assignments to students before they entered, and for those students to submit their work to the school. In addition, there was no communication between future students and their teachers-to-be. In this paper, we report how we developed an SNS for giving assignments to future students, and that makes it possible for future students, current students and teachers to communicate with each other.

1. はじめに

現在、大学の入学選抜は様々な方法で実施されている。その中で、早期に選抜が行われる AO 入試や推薦入試による入学者が増えてきている⁴⁾。大学に入学することを目標としている生徒は、早期に大学の入学が許可された場合、大学に入学するまでの期間が長いために学びへの意欲が低下しやすくなる。また、生徒によっては入学が許可されたとしても学力不足などから、大学の授業についていけないか不安と感じている場合もある。

そのため多くの大学で、入学前課題や入学前教育を実施し、基礎学力や学びへの意欲を維持するようにしている。しかし、入学予定者は全国に存在しており一堂に集めての教育や直接の指導を行うことは困難である。そこで、通信教育や CMS¹⁾ などを活用して入学前課題や入学前教育を実施している。

本学科においても、以前から推薦入試での入学予定者に対しては入学前課題として、推薦図書を提示してその図書の要約や感想を送ってもらい添削を行っていた。しかし、課題の提出は多くないとの反省や、新た

に AO 入試が実施されるようになったため、2006 年に入学前課題を再考する事になった。

また、入学予定者同士は特別なことが無い限り、大学に入学したときに初めて会うことになり、大学入学前に交流することは皆無である。もちろん、大学入学前に在學生や教員と交流することも皆無である。もし、入学予定者や在學生、教員が大学入学前に交流する場があれば、入学予定者は大学に入学することへの不安に対しての助言をもらったり、大学の様子などの情報を入手しやすくなるを考える。

本稿は、2006 年および 2007 年^{*1}に本学の情報学部情報システム学科で、この入学前課題を出題・提出を行ったり、入学予定者や在學生、教員が大学入学前に交流するために構築した SNS について報告する。

2. SNS システム

我々は、まずこのシステムを構築するにあたり、以下の要件を満たすようなものを考えた。

- (1) 課題の出題と提出が容易にできること
- (2) 課題文や提出物の閲覧が容易であること
- (3) 我々が認めた者のみが、利用出来るようにすること
- (4) 入学予定者に対して、できるだけ敷居の低いもの

^{†1} 文教大学情報学部

Bunkyo University Faculty of Information and Communications

^{†2} 青山学院大学社会情報学部

Aoyama Gakuin University School of Social Informatics

*1 実際の運用期間は、その年の 11 月末から翌年の 5 月上旬までである

- (5) 入学予定者に対して、あまり学習活動を意識させすぎないもの

まず最初に、(1),(3)を満たすものにはLMSやCMSなどのe-learningシステムなどが考えられる。しかしe-learningシステムでは、入学予定者にとって敷居は高くないか、学習活動であることを意識してしまうのではないかと、との意見があり別のものを探すことになった。そして、当時普及してきていたSNSが利用できるのではないかととなった。

実際に、

- (1) SNSの主な機能であるコミュニティを利用して容易に出題、そのコミュニティに書込むことにより提出が可能
 - (2) そのコミュニティを閲覧することで容易に見ることが可能
 - (3) SNSの登録者のみがSNSを利用することができ、かつ管理者からの招待がなければ登録できないようにすることで、許可しない者は利用できないようにすることが可能
 - (4) SNSを利用するのに特別な知識は必要ない
 - (5) SNSは、コミュニケーションツールであり学習活動に特化したものではない
- であるので、要件(1)-(5)を満たしている。

そこで、SNSのシステムで「文教大学情報システム学科新入生用SNS」(図1)を構築することになった。なお、ソフトウェアにはオープンソースのOpenPNEを利用した。



図1 SNS ログインページ

2.1 SNSの機能

2006年、2007年ともに、SNSの主な機能は以下の通りである。

- (1) IDとパスワードによる認証
- (2) マイホーム(図2)
- (3) プロフィール
- (4) 日記

- (5) マイレビュー
- (6) コミュニティ
- (7) マイフレンド
- (8) メッセージ
- (9) あしあと
- (10) メンバーやコミュニティなどの検索
- (11) ランキング



図2 マイホーム

ただし、SNSで一般的な招待機能は要件(3)を満たすようにするため、管理者のみに限定した。

それから、2006年と2007年ではOpenPNEのバージョンが異なり*1若干機能に違いがある。特に2007年では、コミュニティや日記への書き込みなどでポイントを加算し、決まったポイントに達するとランクが変わるポイント・ランク機能がついている。



図3 ランク表示

このポイント・ランクであるが、OpenPNEの標準ではポイント数およびランクは自分のマイホームのみ

*1 2006年は2.4系、2007年は2.8系

に表示され、他のメンバーのホームには表示されない。そこで、ソースに手を加えて他のメンバーのホームにもランクを表示するように変更した(図3)。

また、拡張モジュールでランキングにポイントについても表示するようにした。なお、これについても標準ではポイント数が表示されるところをランクを表示するようにソースを変更した。

2.2 SNS への登録

SNS への登録には E-mail アドレスが必要になるが、入学予定者が通常利用している E-mail アドレスを入手するにはなかなか難しい。そこで、入学予定者に対して本学の E-mail アドレスを付与しそれを利用してもらうことにした。

実際の登録では、SNS に直接登録するのではなく、付与した E-mail アドレスに SNS 管理者から招待状を出し、そこから SNS に登録してもらうことにした。入学予定者以外の教員等も同様に、SNS 管理者から招待状を出して、SNS の登録をしてもらった。

その結果、登録者は以下ようになった。

	身分	登録人数 (/対象者)
2006 年	入学予定者	97/100
	教員・その他	11
2007 年	入学予定者	71/80
	在学生	6
	教員・その他	10

なお、2006 年は入学予定者と教員が対象であったが、2007 年から在学生で SNS 経験者の中から希望者を募り、SNS に登録してもらった。

2.3 SNS のデザイン

OpenPNE には、ログインページやヘッダなどを変更できる機能がある。そこで、ログインページ等のデザインを在学生に作成してもらい、時期によって変更した(図4)。



図4 ログインページ

2.4 管理者からのお知らせ

システムに関するお知らせ(障害情報やメンテナン

ス情報)や課題出題のお知らせ等は、マイホームの上部にある INFORMATION で行った。

3. 入学前課題

従来の入学前課題は、課題図書のリストを郵送で送り、その課題図書の中からいくつかを読んでもらい要約や感想などを提出してもらう方法であった。しかし、実際に提出した入学予定者は一割程度しかおらず、入学前課題は十分に活かされていない状態であった。

そこで、今回 SNS を利用すると同時に課題内容についても検討した。学科の特性や SNS を利用するのであることから、出題内容は主に情報システムに関連するインターネット上にある記事をいくつか提示し、その記事の要約及び意見・感想を提出してもらうようにした。

3.1 課題の出題

課題は、コミュニティ機能を使い図5のように、記事の URI を提示して出題をした。課題内容は、インターネット上にある記事やコラム等を五個ほどとりあげ、その中から三つ以上について、要約及び意見・感想を書いてもらうことにした。

従来の出題方法では、図書の入手が出来ないことも考えられるが、この方法では確実に記事を見ることが可能になる。また図書では最新の情報を提示できないが、この方法では最新の情報を提示することも可能になり、出題のはばも広がった。

なお、課題の出題及び提出は、約一ヶ月に一回合計四回出題及び提出を行った。

また、こちらは必須の課題にしなかったが、レビュー機能を利用して推薦図書を提示して要約・感想を提出してもらうという課題も出題した。

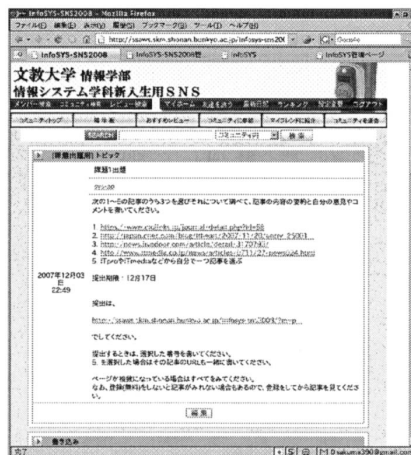


図5 課題の出題

3.2 課題の提出

課題の提出についても、コミュニティ機能を使って行った(図6)。提出されたものに対して、適宜教員がコメントを書き込んでいった。ただし、出題用のコミュニティと提出用のコミュニティは別々のものにした。

この方法では、他の入学予定者に提出したものが見られてしまうが、他の入学予定者のものや教員のコメントも見れるため、様々な意見があることが学習できる。

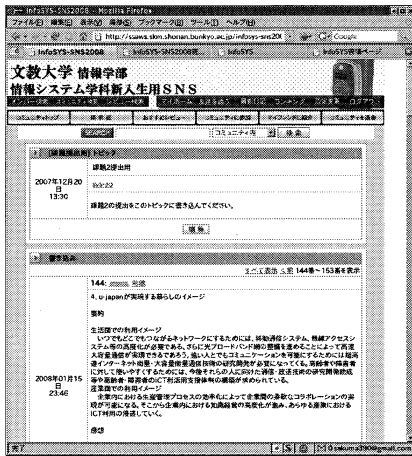


図6 課題の提出

3.3 課題の提出状況

課題の提出状況は、以下の通りである。

	課題	提出人数	率(%)
2006年	一回目	80	80
	二回目	74	74
	三回目	66	66
	四回目	67	67
一回以上提出者(2006年)		86	86
2007年	一回目	56	70
	二回目	53	66
	三回目	54	68
	四回目	50	63
一回以上提出(2007年)		62	78

この表から、各回においては入学予定者の60~80%ほどが課題を提出しており、一回以上提出しているのが78%,86%と、従来に比べて格段に課題を提出する割合が増えている。

4. 参加者同士の交流

SNSの要件を見ればわかるが、最初は課題の出題・

提出が目的であり、入学予定者や教員間での交流については考えていなかった。しかし、SNSが利用できるようになったとき、これは入学予定者や教員間での交流に使えるのではないかと考えた。

そこで、SNSの機能である日記やコミュニティについては制限をもうけず自由に作成できるようにした。

実際には、日記を書いたりそれにコメントするのは全体の3,4割程度であったが、毎日のように日記やコメントをする者も1,2割程度いた。またコミュニティの作成も少ないが、オプ会のコミュニティも作成されたりと、入学予定者同士の活発な交流があった。

さらに、2007年からは在学生在が加わり、大学の情報の提供や助言などをおかげで、入学予定者の入学に対する不安が少しは解消されている。

5. おわりに

今回このSNSを構築したことにより、課題を簡単に提出でき、かつ提出も出来るようになった。そのため、従来より提出されるものが大幅に増え、最初の目的である課題の出題と提出については十分に達成できたといえよう。

また、今までは入学前に入学予定者同士の交流は皆無であったが、このSNSを構築したことにより、日記やコミュニティを通して活発な交流が行われ、入学後の友人関係も従来より早い段階で構築できている。

今後は、入学前のSNSの利用が入学後の学習等どのように影響しているかを検証していく必要があるだろう。

参考文献

- 1) 渡邊 景子, 工藤 清美, 高山 文雄, “CMSによる入学前課題の試み”, 日本教育工学会研究報告集 Vol.07, No.5, pp109-112, (2007)
- 2) 徳野 淳子, 櫻田 武嗣, 萩原 洋一, 秋田 カオリ, 寺田 松昭, 宮浦千里, “女性卒業生の再チャレンジ支援を目的としたSNSの構築”, 情報処理学会研究報告, CE91, pp53-60, (2007)
- 3) 小菅 貴彦, “KNOPPIXを利用した入学選考時の適性検査と入学前教育”, 電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学, Vol.104, ET2004-87, pp83-86(2004)
- 4) 文部科学省, “平成19年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要”, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/09/07092611.htm
- 5) 株式会社手嶋屋, “OpenPNE公式ページ”, <http://www.openpne.jp/>